

言語聴覚ゼミナールⅡ

[演習] 第4学年 通年 選択 1単位

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○中川賀嗣 今井智子 太田亨 下村敦司 田村至 榊原健一 橋本竜作 福田真二 黒崎芳子 小林健史
前田秀彦 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子

【概 要】

大学を卒業することには、研究力を身につけ、私たちの未来に創造的に貢献できるようになることも求められている。言語聴覚障害学の各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）のいずれかの領域について、担当教員の指導の下で論文または文献精読を行い、言語聴覚学の分野で多様な研究がなされていることを知る。または、研究データから、その解釈について学ぶ。

【学習目標】

ゼミナールⅠに引き続き、言語聴覚療法の専門性をさらに深めて科学的に追及するために、各専門領域に関わるデータ、論文または文献を理解でき、それに基づいて議論できる。

1. 科学的文書作成における情報を収集できる。
2. 科学的データを論理的に解釈できる。
3. 必要かつ十分で、かつ簡潔な科学的文章を書くことができる。
4. 科学的なコミュニケーションができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 { 15		言語聴覚学全般（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）の中で特に関心のある1領域に関して、担当教員の指導の下でゼミナール形式をとり、文献を読解することを通して、基本的研究方法について学ぶ科目である。文献検索から、講読法、問題意識、方法、実験法、結果の解析法、考察など一連の研究の実際を知り、研究的視点を養うことで、より理論的な臨床能力を身に付ける。	全担当教員

【評価方法】

課題 50%
受講態度 50%

【備 考】

教科書 ： 使用しない。

参考書 ： 担当教員が、適宜紹介する。

【学習の準備】

それぞれのゼミ担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。